

令和6年9月30日

保護者のみなさまへ

河内長野市立川上小学校
校長 池内 宏明

令和6年度 すくすくウォッチの結果について

仲秋の候、平素は本校教育のためにご支援ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

今年度4月に本校の5年生に実施しました「すくすくウォッチ」の結果について、分析（成果と課題）及び取り組みをご報告させていただきます。

1. すくすくウォッチの概要

(1) 国語について

評価の観点別 平均正答率	川上小学校	大阪府
全体	75.3%	73.4%
知識・技能	75.3%	73.4%
思考・判断・表現	68.3%	64.9%

【概要】全体や評価の観点別でみると、大阪府の平均正答率を上回っている。しかし、学習指導要領の内容別でみると、「知識及び技能」の中の(3)我が国の言語文化に関する事項について、平均正答率が大阪府よりも下回っている。他にも、助詞を考える問題や文章を漢字になおす問題の平均正答率が低い。全体を通して、問題を最後まで読むことができていない、また読み落としていると考えられる部分が見受けられる。

〈特に成果が見られた問題〉

問題8(1)(2)の示された文の構造や、情報と情報の関係を理解して、文の内容を正しく捉える問題では、正答率が大阪府の平均と比べ共に10%上回っている。問題11の相手や目的に応じた適切な言葉に書き直し、文を整える問題では、平均正答率がかなり高く、無回答率は0%であった。問題12(1)の文の中における修飾語と被修飾語の関係を捉えて、文の内容を正しく理解する問題では、正答率が90%以上で大阪府を上回る結果である。

〈特に課題が見られた問題〉

問題5では、故事成語の意味を正しく理解できておらず、解答の選択にばらつきが見られる。教科書に出てきている文だけでなく、日頃から目にしたり、活用したりできるような学習環境の工夫が必要である。問題6では、文中における言葉の意味を正しく理解し、その反対の意味を表す言葉を理解することに課題がある。日の出が「遅い」の反対の意味として、「短い」を選択していることから、問題を最後までよく読まないで正しい理解ができていない可能性がある。問題12(2)の文の中における主語と述語の関係を捉えて、文の内容を正しく理解する問題では、大阪府をわずかに下回っている。情報量が多いときは、物事を整理して考える必要がある。

(2) 算数について

評価の観点別 平均正答率	川上小学校	大阪府
全体	44.8%	36.7%
知識・技能	56.0%	42.5%
思考・判断・表現	37.9%	32.2%

【概要】学習指導要領の領域別では、どの領域でも大阪府の平均正答率を上回っている。しかし、正答率が50%前後のものが多いことから、日頃の学習において、確実に定着を図る必要があると思われる。また、選択式と短答式の問題に比べ、記述式の問題形式の正答率が低くなっている。自分の考えをまとめ、表現する力をつけていく必要がある。

〈特に成果が見られた問題〉

問題1(1)では、長方形の向き合う辺の長さは等しいという性質を理解し、たくさんある数字やミスリードに惑わされることなく、題意に適した数字を選んで考えることができている児童の割合は、大阪府より20%も上回っている。問題2(1)では、ともなって変わる二つの数量を読み取り、□と△を用いてその関係を式で表すことができている児童の割合は、大阪府より12%上回っている。4年生時の学習の際、話し合いやグループワークなど、練り上げの時間を十分に確保してきた成果と考えられる。

〈特に課題が見られた問題〉

問題1(3)では、大阪府の平均回答率を上回っているものの、正答率は27.6%と低い。補助線をもとに分割された図の面積を求める問題は過去の学習でも経験しているが、答えを求めず式だけで表すことが余計に難しさを感じたのではないだろうか。問題1(4)では、長方形と円の性質の違いは理解しているものの、題意に沿う形で解答ができていない。自分の考えを、既習事項をもとに文にして表現する力をつけていく必要がある。問題2(2)の文章を読み取り、そこに示された箇所に絞ってグラフを見る問題では、大阪府よりは高かったものの、正答率は55.2%と半分程度は正答できていない。文章と二つのグラフを複合的な視点で読み取ることに課題が見られる。

(3) 理科について

評価の観点別 平均正答率	川上小学校	大阪府
全体	64.6%	61.9%
知識・技能	70.9%	67.3%
思考・判断・表現	53.4%	52.5%

【概要】大阪府と比べて、全体の平均正答率は上回っている。領域別にみると、「エネルギー」「粒子」を柱とする領域では大阪府より上回っているが、「生命」「地球」を柱とする領域では大阪府より下回っている。選択式や短答式の問題は比較的よく解答できているのに対し、記述式になると、記述の条件が満たせていなかったり、無解答率が上がったなど正答率が36%と低くなっている。

〈特に成果が見られた問題〉

問題1(3)の水を熱して沸き立つ状態となることの名前について「ふっとう」と解答する問題では、正答率が89.7%と高く、大阪府より15%程度上回っている。問題2(5)の磁石に近づけると磁石になるものがあることを理解し、磁化された物体の磁極について考えて図に表す問題では、こちらも平均正答率が大阪府よりも15%程度上回っている。どちらも身近な事象で実験も行うことから、知識として定着していると考えられる。

〈特に課題が見られた問題〉

問題1(4)では、水は加熱されなくても蒸発して水蒸気となり空気中に含まれていくことを理解し、実際の現象にあてはめて考え、文を書き表す問題では、正答率が51.7%で大阪府よりも低く、「蒸発した」と「水蒸気に変化した」の二つの点で説明できている児童は、わずか3.4%である。問題2(6)の方位磁針の性質から、地球の磁場について考え、文を書き表す問題では、正答率が20.7%と低く、大阪府よりも下回っている。地球が一つの磁石で、北がS極になっていることを理解している児童が少ない。この2問だけが記述式で答える問題となっており、文を書くことに課題が残る結果である。

(4)【わくわく問題（教科横断的問題）】について

観点別	学校の平均正答率	大阪府の平均正答率
全体	62.1%	57.9%
A 図や表, グラフ, 短い文章, 会話文等の内容を関連付けて, 正しくとらえる。	66.4%	60.5%
B 図や表, グラフ, 短い文章, 会話文等の内容を関連付けて, それをもとに論理的に考える。	54.5%	50.4%
C 図や表, グラフ, 短い文章, 会話文等の内容を関連付けて, それをもとに新たな課題を考える。	63.8%	62.8%
D 図や表, グラフ, 短い文章, 会話文等の内容を関連付けて, それをもとに自分の考えをまとめ, 伝える。	71.3%	68.8%
E 興味・関心のある事がらについて, 意欲的に工夫して相手に伝える。	86.2%	80.7%

【概要】

全体と観点別の平均正答率は、全てにおいて大阪府より上回っている。全体的には、大阪府と比べて無回答率が低く、児童の頑張りが見られる結果である。観点BやCが他の観点よりも低かったことから、日頃の授業でも図や表、グラフなどの読み取りやそれらの資料と関連付けて、論理的に考える、新たな課題を考える授業作りにより一層取り組んでいく必要がある。

〈特に成果が見られた問題〉

問題①(1)の自転車の歴史の文章を正しく読み取り、文章の内容を表すイラストとしてふさわしいものを選ぶ問題では、大阪府と比べ9%上回っている。問題③(2)の「すし」に関する資料を読み取り、表にまとめる問題では、3つの条件を全て満たして正答している割合は3.4%とかなり低いが、2つの条件を満たして準正答している割合は62.1%と高く、2つ以上の条件を満たした児童の割合は、大阪府と比べ12%上回っている。

〈特に課題が見られた問題〉

問題①(2)では、正答率が34.5%で大阪府の平均を下回っている。チェーンとギヤの仕組みについての組み合わせを求める問題では、一回こぐことで進む距離が一番短いものを選択すべき問題で、長いものを選択してしまっている。問題①(3)では、自転車についての困りごとを書かずに自転車の説明だけをしていたり、自転車の説明が不十分だったりする解答が見られる。また、無回答率についても6.9%と、他の問題より高くなっている。問題③(2)の3つの条件のうち、多くの児童がつかずいた条件は記述式で答える箇所である。どの教科でも共通して「書くこと」に課題が残る。

(4)児童アンケートについて

〈特に肯定的割合が高いアンケート項目例〉

質問番号	質問項目	肯定的な回答率	
		本校	大阪府
5	難しいことがあっても、あきらめない	75.8%	67.6%
47	自分の考えを積極的に発言している	79.3%	61.6%
49	話し合いをするとき、自分の意見と他の人の意見を比べている	86.2%	75.3%
51	授業で学んだことを、ふだんの生活にいかすようにしている	86.2%	78.1%

〈特に課題がみられたアンケート項目例〉

質問番号	質問項目	肯定的な回答率	
		本校	大阪府
6	何事にも一生けんめい努力する	58.6%	73.7%
17	休み時間と授業時間との気持ちの切りかえができる	58.6%	77.3%
32	あなたの学級は、友だちのよいところを互いに認め合える	65.5%	84.7%

【概要】

全体的には、学習に関わる質問項目では肯定的に回答している項目が多く、人との関わりについての質問項目では肯定的に回答している項目が少ない傾向が見られた。

質問番号(47)(49)(51)では、「積極性」「意見の比較」「学習を生活に活かす」など、学習に取り組む姿勢として大事な要素を肯定的に捉えている児童が多い。その上で、協働的な学びを活性化するために、日々学級での活動の充実や様々な問題における話し合い活動、また「いいところ見つけ」の推進を行い、否定的な言葉がけを減らしていく取り組みなど、よりよい人間関係の形成をはぐくむ活動を通して、質問番号(32)の改善を図りたい。

2. 調査結果を受けて

(1)学校が重点的に取り組んでいくこと

国語では、故事成語やことわざ、慣用語等の言葉に慣れ親しむことが必要だと考えられる。国語の授業時間だけでなく、スキルタイムや図書の時間など、それらの言葉に触れることのできる機会を設けるようにしていく。算数では、自分の考えをまとめ、表現する力をつけていくことや、複合的な視点で読み取ることが出来る力を養っていく。理科では、理科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、様々な問題を科学的に解決するための考えを文にして書き表す力をつけていく。

また、複数の情報源から適切な情報を取捨選択して、それをもとに自分の考えを書く学習場面を国語、算数をはじめ様々な教科で設定していきたい。タブレットを用いて情報を集める際にも、適切な情報の選び方や引用の仕方、自分の考えの書き方なども丁寧に指導していく。また、発表する際に、相手に効果的に伝わるよう工夫する場面を取り入れ、そのような場面を多く取り入れることで自分の考えを書くことに抵抗がなくなるよう、根気強く指導を行っていきたい。

また、ふり返り活動を効果的に学習の中に取り入れていき、自分の学んだことを確かめ、次の課題を見つけるサイクルを確立していきたい。

(2)児童のみなさんに取り組んでほしいこと

- 調べ学習をするときは、自分のめあてに合った資料はどれか、たくさんの資料の中から見つけ出し、どの言葉を使ってまとめたらよいか、またそこから考えたことは何か、相手がより理解してくれるためにはどんな工夫をしたらよいかをよく考え取り組みましょう。
- 大切な言葉はしっかりと覚えるようにしましょう。また、自分が苦手なところはどこかを見つめ、自分なりにノートにまとめたり、練習問題に取り組んだりするなど、粘り強く取り組みましょう。
- 作文や振り返り、テストの答えなど、書き終わった後に読み返しましょう。読み返すときには、読む相手に自分の伝えたいことが本当に伝わるのか、間違った表現をしていないかなどを見直し、文章をよりいいもの書き直す習慣をつけましょう。

(3)保護者のみなさまに協力してほしいこと

今回、配付いたしました調査結果をお子さまと一緒にご覧になり、学力・学習状況の把握をしていただきますようお願いいたします。これまで学習した内容について、「しっかりと身につけているか。」「基礎的・基本的な問題は理解しているか」「学習した内容を学習や日常生活の中で活用しているか」など、ご家庭のご協力を得ながら学校としても指導の充実を図っていきたく思います。

また、子どもたちが健康で意欲的に学習活動や行事に取り組んでいけるよう、規則正しい生活習慣の維持を引き続きお願いいたします。

今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力をお願いいたします。